

第4章 農業、鉱業を含めた産業廃棄物

第1節 農業

農業からの産業廃棄物は、関係部門の資料を基に畜産農業からの動物のふん尿及び施設園芸農業からの廃プラスチック類について調査を実施した。

その結果は表4-1-1、表4-1-2のとおりである。

表4-1-1 農業からの産業廃棄物

対象物	関連資料の出典等	排出量
動物のふん尿	*活動量：「都道府県別家畜・鶏飼養頭羽数」 （「日本統計年鑑」総務省統計局）による *ふん尿発生原単位：「堆肥化施設設計マニュアル」 （中央畜産会）による	1,026千 t /年
農業系廃プラスチック類	*発生量：「農林業使用済プラスチック処理実態調査票」（三重県）による	330t/年

表4-1-2 農業系廃プラスチック類

(t /年)

再生処理	埋立処理				焼却処理				その他	合計
	民間	市町村	個人	その他	民間	市町村	個人	その他		
114	87	23	13	3	-	3	88	-	0	330

第2節 鉱業

鉱業からの産業廃棄物については、標本調査により実施した。

鉱業からの発生量は、1,957千 tとなっている。種類別にみると汚泥が1,953千 tと全体のほぼ100%を占めている。

発生量1,957千 tに対して、自己中間処理（自己中間処理量は1,954千 t）により1,391千 tが、委託中間処理（委託中間処理量は2千 t）により1千 tが減量している。

処理・処分は、発生量の29%に当たる565千 tが採取跡地への埋め戻し等となっている。

表4-2-1 鉱業からの産業廃棄物

(千 t /年)

発生量	有償物量	排出量	減量化量	埋め戻し量等その他
1,957 (100%)	2 (0%)	1,957 (100%)	1,392 (71%)	565 (29%)

第3節 農業、鉱業を含めた総発生量

農業、鉱業を含めた産業廃棄物の総発生量は、7,526千tとなっている。

業種別種類別の発生量は、表4-3-1に示すとおりである。

表4-3-1 農業、鉱業を含めた総発生量

(千t/年)

業種 種類	建設業	製造業	電気・ 水道業	運輸業	卸・ 小売業	サービス 業	医療業	農業	鉱業	計
燃え殻	0	26	0	0	0	0	0	0	0	26
汚泥	145	1,416	564	1	2	1	0	0	1,953	4,082
廃油	0	115	0	0	13	1	0	0	0	129
廃酸	0	36	0	0	0	0	0	0	0	37
廃アルカリ	0	101	0	0	1	0	0	0	0	102
廃プラスチック類	13	171	0	1	4	1	1	0	0	192
紙くず	3	7	0	0	0	0	0	0	0	10
木くず	51	17	0	0	0	0	0	0	0	69
繊維くず	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
動・植物性残さ	0	102	0	0	0	0	0	0	0	102
ゴムくず	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
金属くず	14	210	0	1	6	0	0	0	0	232
ガラスくず等	16	117	0	0	0	0	0	0	0	133
鉱さい	0	88	0	0	0	0	0	0	0	89
がれき類	1,195	38	1	0	6	0	0	0	2	1,242
ばいじん	0	44	0	0	0	0	0	0	0	44
動物の糞尿	0	0	0	0	0	0	0	1,026	0	1,026
その他産業廃棄物	3	1	0	0	0	0	3	0	0	6
計	1,440	2,493	565	4	33	3	5	1,026	1,957	7,526

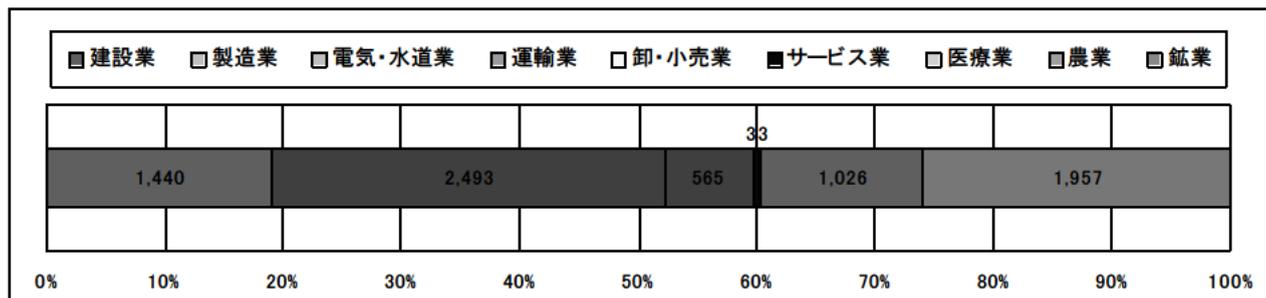


図4-3-1 産業廃棄物発生量の種類別割合

(グラフ中の数値は、千t/年)

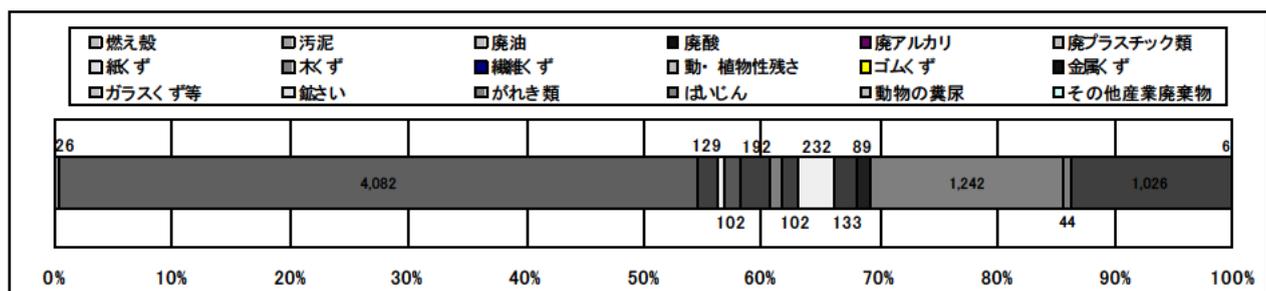


図4-3-2 産業廃棄物発生量の業種別割合

(グラフ中の数値は、千t/年)